

人のぬくもりと
ふれあいが奏でる躍動のまち
丹波高原文化の郷●京丹波

広報 京丹波

KYOTAMBA

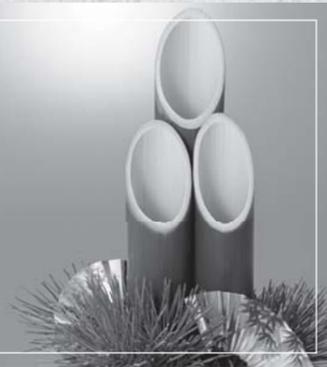
NO.75
1月号

2012年1月13日発行



将来を見据えた 安定したまちづくりを推進

新春
ごあいさつ



今月の表紙

今回は、干支の「たつ」を使って表紙を飾りました。今年1年が町民の皆様にとって幸多い年であることを心より願っています。



京丹波町議会議長
野口久之

新 年明けましておめでとうございます。町民の皆様におかれましては、平成二十四年の輝かしい新春をご家族お揃いで迎えられ、謹んでお祝い申し上げます。顧みますと、昨年は長引く不景気から



京丹波町長
寺尾豊爾

町 民の皆様、新年明けましておめでとうございます。平成二十四年の輝かしい新春をお迎えになりました。こ

復の兆しが見えない日本経済への抜本的な対策など課題が山積しており、地方財政への影響が懸念されること、地方財政減はもとより、合併特例期間内における土地開発公社債務の解消などの財政健全化対策に努めるとともに、京都府立林業大学の開校や丹波パーキングエリアの整備など希望に満ちた事業を進め、町民の皆様が住みやすい町を目指して『安

NO.75 CONTENTS

- 2 新春ごあいさつ
- 4 '11京丹波の主なできごと
- 5 丹波PA(仮称)と一体的な地域振興拠点整備に向けた基本計画を策定
- 8 ダムの永久堅固を祈願する「畑川ダム定礎式」
- 10 人口15,732人、世帯数5,660世帯で共に減少 平成22年国勢調査集計結果
- 12 Dr's Message いきいき健康術
- 13 **FLASH** KYOTAMBA TOWN NEWS 2012

和知小と地域教育協議会が共に文部科学大臣表彰を受賞
— 学校給食と地域による学校支援への取り組みが評価

道の駅「丹波マーケス」が装いを一新
— リニューアル工事竣工式

京丹波町ならではの企画で男女の出会いをサポート
— 冬ほたるdeときめきツアー

農林水産業への功労者に表彰状を授与
— 農林水産フェスティバル

蒲生野中の竹林翔大さんが日本代表選手団に参加
— U-16ジュニアユース日本代表選手団オーストラリア遠征

力強く、豪快に「大しめ縄」をなう
— 京都祇園八坂神社本殿の大しめ縄作り

南丹船井交通安全協会京丹波支部が団体表彰を受賞
— 京都府交通対策協議会交通安全功労者等表彰

ステージ発表と展示で文化の魅力を発信
— 文化祭

多彩なメニューで「瑞穂そば」をPR
— 瑞穂新そばまつり

知事と和いれミーティングがオープニングを飾る
— 冬ほたる

37チームが健脚を競う
— 駅伝競走大会

少しく早く脱し、明るい未来を願う年でありました。

しかし、そんな矢先、未曾有の大震災が東日本を襲い、すべての国民と全世界の人々に極まりのない悲しみと怒りをもたらしました。

また、幼い子どもや高齢者を巻き込んだ無差別殺傷事件など毎年のことながら暗いニュースが相次ぎました。

一方、国外に目を向けましても、テロ事件や暴動をはじめ、タイでは洪水被害が発生し、今もなお収束する気配は無く日本の産業社会にも大きな影響を与えていることなど、国内同様、暗い話題が多い年でもありました。

しかし、そんな中、サッカーの女子ワールドカップで、なでしこジャパンが世界一の栄冠に輝き、多くの人に感動と勇気を与えた年でもありました。

わが町におきましては、少子高齢化や過疎化が進むとともに、国庫補助金の見

直しや不十分な税源移譲、不安定な地方交付税の動向など、依然として厳しい財政状況が続く中ではございますが、京丹波町の限らない発展のため、なお一層議員一丸となり残された任期を全うしてまいります。

めまぐるしい社会情勢の変化などにより、ますます厳しい状況に直面しておりますが、町行政、議会、町民の皆様と協働による一体感の持てる均衡あるまちづくりを進めていかなければなりません。

地方分権時代にふさわしい開かれた議会として、町民の皆様への期待にこたえられるよう懸命に努力をいたしてまいり、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

本年がより一層「京丹波町の躍動の年」となることと併せて、皆様の益々のご健勝、ご多幸を心からお祈りいたしました。年頭のごあいさつといたします。

心『活力』『愛』のあるまちづくりを基本に諸施策を推進してまいります。

これから平成二十四年度予算編成に取り組んでまいります。限られた貴重な財源をいかに効率よく効果的な事業に配分していくかが何よりも重要であると考えております。将来を見据えた長期的な視野のもと、安心かつ安定したまちづくりに取り組んでいくため、選択と集中の観点から事務事業の点検を行うことも

に、各種施策に創意工夫を加えるなど、常に町民目線に立つことで「やさしさ」とぬくもりのあるまちづくり」に積極的に取り組む決意でございますので、二層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

後になりましたが、今年も、町民の皆様にとりまして幸せ多い年でありましたことを心からお祈り申し上げます、新年のごあいさつといたします。

と、心からお喜び申し上げます。

昨年を振り返りますと、甚大な被害をもたらした東日本大震災や台風十二号による紀伊半島での大規模な土砂災害、タイ王国において過去五十年間で最悪の被害が発生するなど、自然の驚異を改めて思い知らされる年でした。被災された皆様にお見舞い申し上げますとともに、一日も早い被災地の復興を衷心よりお祈りいたします。

本町におきましては、瑞穂小学校開校やみずほ保育所開所をはじめ、十二年間にわたる農用地総合整備事業の完工、ケーブルテレビの全町運用開始、国民文化祭と食の祭典開催、畑川ダム定礎式の挙行など、実りある話題が多い一年となりました。また、友好町・福島県双葉町の復興支援に向けて京丹波町が一丸となつ

て取り組めたことは、町民の皆様のご理解とご協力の賜物であると存じております。年頭にあたり、温かいご支援とご協力に感謝を申し上げますとともに、関係機関との連携を図りながら今後も被災地の復興支援に取り組んでまいり所存でございますので、引き続きご支援くださいますようお願いいたします。

さて、町長就任から二年が経過しましたが、本町の財政状況は、国の経済対策や合併特例措置による交付税の増加、これまで積極的に取り組んできた財政健全化対策の効果により、経常収支比率や実質公債費比率などの財政指標が着実に改善傾向にあります。しかし、近年の国の動向を見ますと、多額の債務を抱える中、東日本大震災の復旧対策や増え続ける社会保障費の財源確保、さらには低迷を続け回

丹波PA(仮称)と一体的な地域振興拠点整備に向けた基本計画を策定

京都縦貫自動車道(以下「縦貫道」)に建設される丹波パーキングエリア(仮称)(以下「丹波PA」と一体的な地域振興拠点の整備に向け、「同拠点整備ワーキング会議」(阿部大輔会長、委員21人)の提言を踏まえて、「同拠点整備基本計画策定委員会」(島中源一委員長、委員19人)が整備方針や整備計画などを定めた基本計画を策定し、平成23年12月13日に寺尾町長に報告。今回、策定された計画概要についてお知らせします。



寺尾町長に答申書を提出する島中委員長と宗田副委員長(役場町長室・蒲生)

地域振興拠点整備の目的

縦貫道の丹波綾部道路開通に伴い、主要都市への移動時間が大幅に短縮され利便性の向上をもたらす反面、本町では一般道通行車の大部分が縦貫道へ転化し、「通過する町」となることが想定され、経済や交流などで大きな負の影響を及ぼすことが懸念されます。一方、縦貫道通行車を地域資源として捉え、丹波PAは地域活性化の展開に有効活用できる絶好の場所となります。

このようなことから、地域振興拠点は、地域との関わりへの入り口として、確実な誘導による経済収入の確保、地域情報の発信、交流による活性化、さらには施設利用をきっかけとした地域への直接誘導を図ることを目的として整備します。

また、本町の特徴である「食の供給地」としての面を生かし、生産と需要を結びつけた都市と農村の交流による流通ルートが多様化、ブランドの確立、地産地消の展開、これらによる地域経済・雇用の活性化が期待できるとともに、道路利用者に良質で付加価値の高い道路休憩施設を提供することができ、道路整備の効果をより高めることにつながります。

地域振興拠点の整備対象地

地域振興拠点は丹波PA周辺に整備を計画しているため、曾根地内を対象地としています。

対象地は、塩谷古墳公園、京都府立丹波自然運動公園に近接し、北側で府道松山須知線に面しています。(「図1」参照)



【図1】対象地の位置

- 1月 ●町消防団が出初式を開催(9日)
- 新成人135人が出席する中、成人式を開催(9日)

- 2月 ●交通手段確保に関する懇話会が発足(1日)
- 農用地総合整備事業の完成を祝い開通式パレードと総合完工式が開催される(2日)
- シンボル制定委員会が発足(25日)

- 3月 ●派遣団が東日本大震災で被災した双葉町の避難所を訪問(16日)
- 瑞穂中学校屋内運動場が完成し、竣工式を開催(22日)
- 桧山小・明俊小(26日)、三ノ宮小・質美小(27日)が閉校記念式典を開催

- 4月 ●全町でケーブルテレビの運用を開始(1日)
- 町立医療機関の運営体制を一本化(1日)
- 瑞穂小学校で開校式(6日)、みずほ保育所で開所式(7日)を開催
- 東日本大震災への支援を目的に「町災害支援対策本部」を設置

- 5月 ●地域包括ケアシステムネットワーク協議会が発足(30日)

- 6月 ●地元と町、京都学園大学が鳥インフルエンザ発生農場跡地活用構想策定に関する協定書に調印(23日)
- 丹波PA(仮称)と一体的な地域振興拠点整備に向けて「基本計画策定委員会」(15日)と「ワーキング会議」(29日)が発足
- 町長と語るつどいを町内22会場で開催(6月30日～9月9日)

- 7月 ●町観光協会が発足(1日)

- 8月 ●グリーンランドみずほで全日本中学生ホッケー選手権大会を開催(12日～15日)
- たんば夏まつり(5日)、みずほ夕涼み大会(7日)、わちふるさと祭り(21日)が開催される

- 10月 ●「つつじ」「イチョウ」「うぐいす」を町のシンボルに制定(11日)
- 下水道使用料の料金体系を統一

- 11月 ●京都府で国民文化祭が行われ、本町では「魅せる・人形芝居フェスティバル」と「食の祭典」を開催(6日)
- 京都丹波ロードレースを開催(3日)
- 京丹波フレンドパークの完成を祝い除幕式を開催(4日)
- 畑川ダム の定礎式が開催される(28日)

- 12月 ●出会いサポート事業「冬ほたるdeときめきツアー」を実施(4日)
- 琴滝で「冬ほたる」が開催される(9日～24日)



12年間にわたる農用地総合整備事業が完成し、開通式パレードと総合完工式が盛大に行われました。



十倉教育委員長から井尻校長に校旗が授与された瑞穂小学校の開校式。新たな歴史の幕開けを多くの人たちが祝いました。



全日本中学生ホッケー選手権大会では、瑞穂中・女子がベスト8、蒲生野中・男子がベスト16入りの好成績を収めました。



国民文化祭で多くの人々を魅了した「和知人形浄瑠璃」。食の祭典との同時開催により、会場は多くの人たちでにぎわいました。



畑川ダムの定礎式では、寺尾町長の発声により出席者全員で万歳三唱をし、工事の安全を祈願しました。

基本コンセプトは「ハイウェイテラス・京たんば」

「温かみとこだわりでもてなす京都丹波ブランドの発信基地」

基本コンセプトに基づき、地域振興拠点として三つの役割を位置付け、具体的な整備の方向性を次のとおり示しています。

① 古墳とおもてなしに出会い、自然が包み込む交流拠点

役割

塩谷古墳群の歴史、周囲を囲む自然や田園風景、高低差のある地形さらには隣接する丹波自然運動公園などの周辺環境を生かし、来訪者が休憩や買い物のほか、テラス状の高台からの美しい眺望、自然、歴史、地域の人々とのふれあいを楽しむことができる交流拠点としての役割を發揮します。

整備の方向性

- 塩谷古墳公園や丹波自然運動公園などの周辺施設とのつながりや、自然とのふれあいを意識した施設配置。
- 周辺の豊かな自然や田園風景への眺望の確保、盛土に際し修景による里山景観と調和した美しい施設整備。
- 子どもから高齢者までが参加でき、来訪者に地域のおもてなしを感じていただける定期的な交流イベントなどの機会を提供。
- ユニバーサルデザインによる、誰もが楽しめる魅力ある施設整備。
- 誰もが気軽に利用できる活動スペース確保。

※用語説明

「ユニバーサルデザイン」高齢であることや障害の有無などにかかわらず、すべての人が快適に利用できるように製品や建造物、生活空間などをデザインすること。

② 京丹波町そして丹波地域全体の魅力を伝える情報発信拠点

役割

町内の既存施設とは誘客する路線に応じてターゲットを差別化するとともに、京丹波町各地の旬の情報をきめ細かく提供することで、町内への周遊や滞在を促し、さらには丹波地域全体の魅力を発信して活性化を盛り立てる役割を發揮します。

整備の方向性

- 観光案内コーナーを設けて、京丹波のことに詳しい語り部、総合案内人が町内全体を見渡し、来訪者に応じたおすすめ観光スポットや旬の特産品などの情報を紹介。
- 町内の道の駅や商店のおすすめ情報、朝市などのイベント情報を提供。
- 周辺の観光施設や、町に立ち寄り京丹波の魅力を体感していただくための周遊サービスを提供。
- 縦貫道で唯一の滞留の場としての特徴を生かし、丹波地域全体の情報を発信。

③ ふるさとへの知恵と自然の恵みが詰まったおいしさの拠点

役割

地元農産物を並べるだけの施設ではなく、作り手の丹精が込められ、ふるさとの知恵や工夫、そして品質管理にもこだわった商品を提供することで、京都丹波ブランドを一層高めるおいしさの拠点としての役割を發揮します。

整備の方向性

- 縦貫道で唯一の物販などのサービス提供の場としての特徴を生かし、京丹波ブランドの向上はもとより、南丹地域全体を含む京都丹波ブランドの向上、さらにその他周辺地域も含めた地域振興に寄与する施設。
- 生産者の知恵が詰まった新鮮食材や料理などにより、来訪者に京都丹波ブランドの食の魅力を提供。
- 生産者に対する農産物の栽培方法、出荷、梱包などについての研修や、農産物も加工品も地元産しか扱わないといったこだわり。
- 生産者や新規農業者に対し、既存の道の駅などに加え新たな販路の確保や、旬の食材の保存・加工による年間を通じた安定した販売実施。
- 京丹波で採れる野菜を使った特色あるレストランの整備。
- 農業の技術指導や貸し農園の斡旋、商工業のアンテナショップの場の提供など、産業の担い手を育てることに、町全体の活力の底上げおよび定住や雇用の促進。

導入機能と機能配置の基本的な考え方

導入施設

地域振興拠点の具体的な機能配置については、「施設配置イメージ」のとおりとし、次のことに留意します。

地域振興拠点として整備する施設の導入機能は、次の「導入施設一覧表」とおりとします。



施設配置イメージ

- **北側に広がる田園風景、丹波自然運動公園への眺望**
盛土上に施設整備するという特徴を生かして、北側への眺望が確保できる位置に建物を配置し、駐車場は縦貫道側に寄せて配置します。
- **塩谷古墳公園との近接性の確保**
塩谷古墳公園の隣に整備するという点、塩谷古墳群が有する歴史や自然的空間を活用するという点から、建物立地部を含む人のための空間を塩谷古墳公園と近接して整備します。
- **三つの駐車場から同程度の距離の位置に配置**
京都市行き、宮津行き、一般の三つの駐車場からの距離に大きな差が出ない位置に建物を配置します。

導入施設一覧表

導入機能	施設名	整備の基本方針
交流拠点	交流広場	家族みんなで楽しむことのできる施設や地元の団体・サークル・小中学生の活動や発表の場として利用することのできる屋外型のイベント施設の整備が考えられる。また、古墳や水田などの風景を楽しみリラックスできる空間として整備する。
情報発信拠点	地域情報発信センター	地域の紹介、周辺施設、地域のイベントの情報発信コーナーや地元団体・サークルの作品などの展示スペースを整備する。
	周遊サービス施設	バスの停留所やレンタサイクルなどの地域を周遊するための入口となる空間を確保する。
おいしさの拠点	飲食施設	地元産農作物と美しい風景を両方堪能できるレストラン、カフェを整備する。
	特産物販売施設	地域の特産品や加工品、野菜など農作物販売スペースを確保する。
	ミーティングルーム	地元農家で構成される販売部会が農作物の生産、品質について会員研修などを行う。
	加工施設	新たな京都丹波ブランドとなりうる加工品を製造する。
その他	便所	縦貫道の交通量および松山須知線からの利用者を踏まえて整備する。
	事務室、会議室、更衣室、倉庫、電気・機械室	管理運営に必要なスペースを想定する。
	防災拠点施設	大規模災害時における、救援物資などの中継基地、救援部隊などの活動拠点および道路利用者の一時避難施設として機能する施設を整備する。

整備計画

概算事業費は、十五億二千五百万円であり、平成二十六年年度の縦貫道の丹波綾部道路開通に合わせて、地域振興拠点の整備を進めます。

想定される事業効果

(一) 整備に伴う経済波及効果

施設建設には、関連する産業間での原材料購入や製品販売という商取引を通じて、需要と供給が産業の末端まで広がっていきます。これらの生産額の総和が施設整備による経済波及効果となります。

また、施設運営や売上によってもたらされる直接効果をはじめ、他の産業部門に需要が波及することによる一次波及効果、生産誘発で生じた雇用者所得が消費に転換されることにより新たな生産を誘発する二次波及効果も見込まれます。

(二) 農業等基幹産業の振興

地域振興拠点に設置する特産物販売施設において、品質にこだわった農産物や特色ある加工品などを販売し、その認知度が高まれば、「京都丹波ブランド」として一層消費者の支持を得ることにつながり、基幹産業である農業および関連産業の活力の向上につながる事が期待されます。

(三) 町内および丹波地域における交流人口の拡大

地域振興拠点を京丹波町および丹波地域全体の魅力を伝える情報発信拠点として機能させることで、入込として見込んでいる年間約百四十万人（うち約五十五万人の消費行動を想定）を、町内各地や丹波地域へと効果的に誘導することが可能となり、既存施設や観光地における入込客数およびリピーターの拡大が期待されます。

(四) 旧三町の枠組みを超えた一体性の発揮

地域振興拠点は、新たな出荷先を求める農業者にとって旧三町の枠組みを越えた販売施設として期待されるものであり、既存の道の駅との連携により新たな魅力を発信する施設となりうるものと考えられています。

(五) 災害に対する対応力の向上

縦貫道に面するという交通の利便性、交流広場や駐車場などの広い空間、さらには避難所としても機能しうる建物やトイレなどを有していることから、災害時における救援物資の搬入や人員の受け入れ、援助物資の中継基地などとしての機能を發揮することができ、災害に対する対応力の向上が期待できます。

【問】土木建築課 開発プロジェクト推進室 ☎82-3806

※基本計画概要版を町ホームページで公開していますので、ご覧ください。 <http://www.town.kyotamba.kyoto.jp>

ダムの永久堅固を祈願する

「畑川ダム定礎式」



式典が行われた畑川ダム工事現場

洪水調節や水道用水の確保、流水の正常な機能維持(正常流量の確保)を目的に建設されている「畑川ダム」。今回、ダムの築造に際し、礎石を据えてダムの永久堅固と安泰を祈願する「定礎式」が行われました。

児童たちの夢や希望と共に礎石を埋納

京都府が主体となり、京丹波町との共同事業として建設工事が進められている畑川ダムの定礎式が十一月二十八日、下山地内のダム建設現場で行われ、地権者や地元住民をはじめ、国・府・町などの議会議員や行政関係者、工事関係者ら約百三十人が出席しました。

式典では、はじめに山田啓二知事が「地域の皆様の命の水を確保し、洪水被害か



式辞を述べる山田知事

ら命を守るため、平成四年から工事を進めてきました。これから工事は最盛期を迎えますが、平成二十四年度の完成を目指し、安全対策はもとより環境対策にも万全を期して工事を進めてまいります」と式辞を述べた後、京都府議会議長らによる来賓あいさつや来賓紹介、祝電披露などを実施。続いて、府職員や工事関係者十六人の担ぎ手により重さ約百九〇キの礎石が鎮定場所(堤体中央)に搬入されると、礎石の周りにスコップでモルタルを入れる礎石鎮定の儀、モルタルをコテでならす齧鍔の儀、礎石をしっかりと納めるために四隅を木槌で叩く齧槌の儀が、関係者により行われました。

次に、「メモリアルストーン」(下山小学校の全校児童がダムコンクリートに使用する石に夢や希望を書き込んだもの)の埋納が行われ、児童代表として出席した十一人の六年生が一人ずつ書き込んだ言葉を紹介。石には、「畑川ダムがみんなのためにになりますように」との願いをはじめ、パティシエや教師になりたいなど将来



堤体中央部分に据えられた礎石とメモリアルストーン



式典出席者を出迎える地元住民



バケツからコンクリートが流し込まれ礎石が埋納される様子を見守る出席者



礎石を担いで運ぶ府職員と工事関係者



礎石が無事に埋納されたことを祝してくす玉を割る関係者



礎石鎮定を行う山田知事や寺尾町長ら



会場内を鼓笛パレードする下山小の児童たち



メモリアルストーンに書いた言葉を発表する下山小の児童たち



寺尾町長の発声で万歳三唱をする出席者

の夢が記され、児童たちの手によって礎石の周りにていねいに置かれました。その後、クレーンで吊り下げられたバケツからコンクリートが流し込まれ礎石が埋納されると、くす玉開披や下山小児童による鼓笛演奏が祝福ムードに華を添え、寺尾町長の発声で出席者全員が万歳三唱をして式典を締めくくりました。

経過と事業概要

高屋川や畑川流域では、昭和二十八年の台風十三号をはじめとして、集中豪雨による家屋や田畑への浸水被害が幾度となく発生。平成十六年の台風二十三号では、黒瀬・藤ヶ瀬地内で床上・床下浸水が発生し、安心・安全の確保が大きな課題となってきました。

また、本町は由良川流域と淀川流域

の分水嶺に位置することから、水道水源を溪流や地下水に依存せざるを得ない状況であり、夏季には水源が枯渇するなどの渇水被害が多発。平成六年と平成十二年には、断水および給水制限を行うなど、安定した生活用水の確保が長年にわたる悲願でした。

厳しい地域の歴史を踏まえ、京都府

では、洪水調節、水道用水と正常流量の確保を目的に、平成四年に小規模生活ダム事業として畑川ダム建設を採択し、事業に着手。水道水確保が困難な状況であった旧丹波町・旧瑞穂町では、広域的な視点から円滑で効果的な水供給を行うために「丹波町・瑞穂町水道事業組合」を平成九年に設立し、畑川ダムを水源地とした建設工事に関する基本協定を京都府と締結。合併により同組合

は解散しましたが、事業は京丹波町が引き継ぎ、京都府と共同で工事を進めています。畑川ダムは、洪水調節用ゲートを持たない自然調節ダムで、高さ三十四メートル、総貯水容量百九十六万トンの重力式コンクリートダムとして整備。平成二十四年度完成予定で、完成後は水道用水として町が日量五千トンを取水し、安定した水道用水供給に役立っています。

人口15,732人、世帯数5,660世帯で共に減少

平成22年 国勢調査集計結果

国の最も重要な統計調査で、国内に住んでいるすべての人と世帯を対象とした「国勢調査」。平成二十二年十月一日現在で、全国一斉に行われた調査結果がまとまりましたのでお知らせします。

調査結果の概要

今回の結果を前回(平成十七年)と比較すると、人口は二万五、七三二人で、一六一人(六・九%)の減、世帯数は五、六六〇世帯で六十四世帯(一・一%)の減となりました。これを旧町別に見ると、人口はいずれも減少していますが、世帯数で旧丹波町が三十九世帯増加しています。

人口を男女別に見ると、男性が七、三九三人、女性が八、三三九人となり、人口性比(女性百人に対する男性の数)は平成十七年の八八・五から八八・七に増加。年齢別では、年少人口(十五歳未満)が二、七八三人で三六七人の減、生産人口(十五～六十四歳まで)が八、四六四人で九二二人の減となる一方、老年人口(六十五歳以上)は五、四八一人で二一人の増となりました。

また、年齢別における構成割合と前回比較は、年少人口が一・三%で一・四ポイント低下、生産人口が五三・八%で一・七ポイント低下し、老年人口の三四・八%のみ三・〇ポイント上昇しました。(表1)参照

一般世帯における 人員構成

一般世帯における世帯人員は、二人世帯が一、八七九世帯で全体の三三・三%を占め、次いで一人世帯の一、二五二世帯が二二・二%、以降は世帯人員が増えるのと反比例する形で世帯数が減少。夫婦のみの世帯や単独世帯の増加により、一世帯当たりの人員は今回が二・七人で、前回の二・九人より減少しました。(表2)参照

【表2】一般世帯数における世帯人員構成

	総数	世帯人員							
		1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人以上
京丹波町	5,650	1,252	1,879	993	747	408	239	102	30
(旧丹波町)	2,787	622	890	486	391	222	117	45	14
(旧瑞穂町)	1,611	328	561	292	200	116	71	35	8
(旧和知町)	1,252	302	428	215	156	70	51	22	8

人口の推移

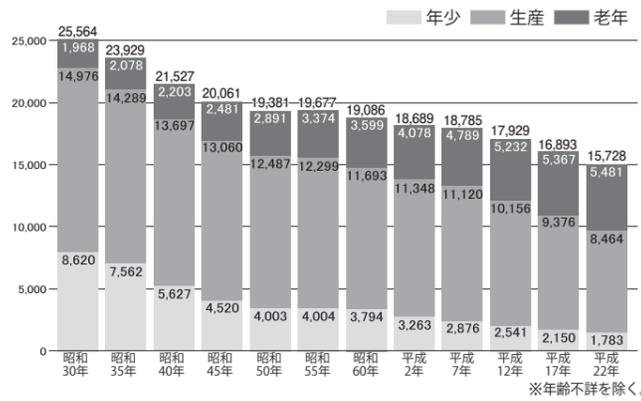
人口の推移としては、昭和三十年から昭和四十五年まで高度経済成長期に合わせて人口減少が加速し、その後、昭和四十五年から平成七年までは増減を繰り返しながらゆるやかに減少していましたが、平成七年以降は人口減少が加速傾向にあります。

今回と昭和三十年を比較すると、京丹波町としては九、八三二人(三八・五%)の減。これを旧町別に見ると、旧丹波町が一、二四〇人(二三・七%)の減、旧瑞穂町が三、七二七人(四四・九%)の減、旧和知町が四、八七五人(五九・一%)の減となり、旧瑞穂町では約半分、旧和知町においては約四割まで人口が減少しています。(図1)参照

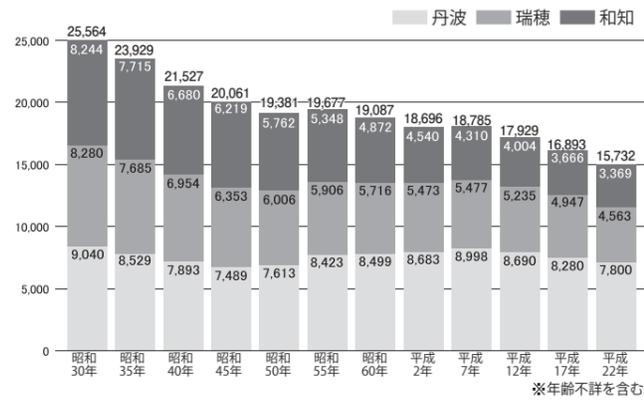
年齢別人口の推移

人口の推移を年齢別に見ると、昭和三十年は生産人口が全体の五八・六%を占め、次いで年少人口の三三・七%、老年人口の七・七%となっていました。しかし、年少人口が減少の一途をたどる一方で、老年人口は増加を続け、平成二十二年には、生産人口が全体の五三・八%、老年人口が三四・九%、年少人口が一・三%となったことから、少子高齢化が進む地域の実態が浮き彫りになっています。(図2)参照

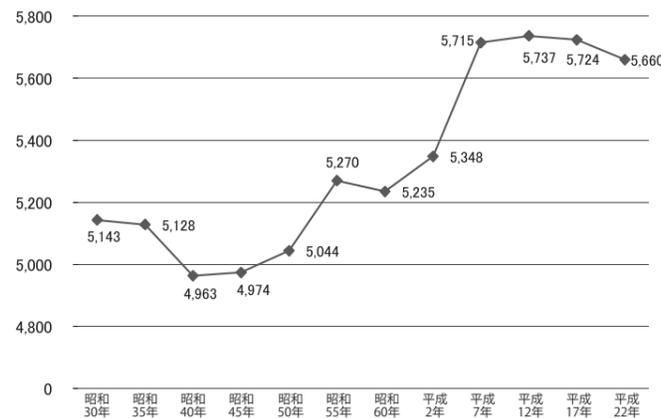
【図2】年齢別人口の推移



【図1】人口の推移



【図3】世帯数の推移



世帯数の推移

世帯数の推移としては、人口の推移と同様に昭和四十年までは世帯数の減少が加速。その後、増加傾向に転じ、昭和五十五年に五、二七〇世帯、平成七年に五、七一一世帯となり、今回は五、六六〇世帯となりました。(図3)参照

【表1】平成22年国勢調査結果概要

	総数			男			女		
	平成22年	平成17年	増減	平成22年	平成17年	増減	平成22年	平成17年	増減
京丹波町	15,732	16,893	△ 1,161	7,393	7,930	△ 537	8,339	8,963	△ 624
(旧丹波町)	7,800	8,280	△ 480	3,697	3,928	△ 231	4,103	4,352	△ 249
(旧瑞穂町)	4,563	4,947	△ 384	2,172	2,351	△ 179	2,391	2,596	△ 205
(旧和知町)	3,369	3,666	△ 297	1,524	1,651	△ 127	1,845	2,015	△ 170

※人口総数には年齢不詳を含めています。

②年齢別人口

	年少人口 (15歳未満)			生産人口 (15～64歳)			老年人口 (65歳以上)		
	平成22年	平成17年	増減	平成22年	平成17年	増減	平成22年	平成17年	増減
京丹波町	1,783	2,150	△ 367	8,464	9,376	△ 912	5,481	5,367	114
(旧丹波町)	964	1,145	△ 181	4,443	4,858	△ 415	2,389	2,277	112
(旧瑞穂町)	478	593	△ 115	2,437	2,717	△ 280	1,648	1,637	11
(旧和知町)	341	412	△ 71	1,584	1,801	△ 217	1,444	1,453	△ 9

③世帯数

	総数			一般世帯数			施設等の世帯数		
	平成22年	平成17年	増減	平成22年	平成17年	増減	平成22年	平成17年	増減
京丹波町	5,660	5,724	△ 64	5,650	5,714	△ 64	10	10	0
(旧丹波町)	2,789	2,750	39	2,787	2,748	39	2	2	0
(旧瑞穂町)	1,617	1,654	△ 37	1,611	1,648	△ 37	6	6	0
(旧和知町)	1,254	1,320	△ 66	1,252	1,318	△ 66	2	2	0



テープカットを行う寺尾代表取締役ら関係者(丹波マーケス・須知)

道の駅「丹波マーケス」が装いを一新

リニューアル工事竣工式

十一月二十五日、道の駅「丹波マーケス」のリニューアル工事竣工式が開催され、地元業者や行政関係者ら約七十人が出席しました。

竣工式では、道の駅を運営する丹波地域開発株式会社、寺尾豊爾代表取締役による式辞を皮切りに、南丹広域振興局長や島中副

町長らによる来賓祝辞、テープカットなどを実施。式典が終了すると、かねや太鼓の陽気な演奏が鳴り響く中、道の駅がリニューアルオープンし、装いを一新した店内は出席者をはじめ訪れた多くの人たちにぎわいました。

同道の駅は、平成九年四月に商業施設との複合施設として開業。今回が初の改装で、二十五%の省エネを目指してLED照明などを導入したのをはじめ、オストメイト対応の身体障害者用トイレや授乳室の新設など、利用しやすい施設づくりに努められています。

京丹波町ならではの企画で男女の出会いをサポート

冬ほたるdeときめきツアー

十二月四日、男女の出会いをサポートする「冬ほたるdeときめきツアー」を開催し、男女各十七人が参加しました。

開会セレモニーでは、ツアーを運営する町観光協会の岡本久会長が「京丹波町ならではの企画を計画していますので、楽しみながら素敵な出会いをしてください。そして、十二月四日がみなさんにとって忘れられない思い出の日となることを願っています」と、参加者へのメッセージを込めてあいさつ。参加者たちは、



協力してイルミネーションの取り付け作業を手伝う参加者(琴滝・市森)

和知小と地域教育協議会が共に文部科学大臣表彰を受賞

学校給食と地域による学校支援への取り組みが評価

このほど、和知小学校が学校給食文部科学大臣表彰、同校地域教育協議会(吉田昭会長、委員十七人)が「地域による学校支援活動」推進にかかる文部科学大臣表彰を受賞しました。

同校は、教育活動全体を通して地域の食文化や良さに触れる取り組みを積極的に実践するとともに、

給食への地場産物利用やランチルームでの全校児童一斉給食などを実施。ほかにも、昨年度には須知高校や京都大学と連携した「パートナーズスクール事業」に取り組み、食をテーマに学校の枠を超えて活動する中で大きな成果を収めたことなどが評価されました。

一方、同校地域教育協議会は、新たな地域づくりの視点から、学校・家庭・地域が一体となって子どもを育てる学校支援地域本部事業に取

り進むことを目的に、平成二十年度に発足。「学習」「栽培」「食育」「読書」の四つの支援部で構成され、学校のニーズに応じ、和知人形浄瑠璃や和知太鼓などの伝統芸能継承、農作物の栽培や収穫体験、伝統料理の調理指導、読み聞かせなど、児童の学習意欲の向上などに成果をあげたことが評価されました。

北村友子校長は「受賞できたのは地域の教育力を生かした取り組みの成果だと思っていますし、支援い



表彰状を手にする和知小学校の北村校長

ただいている皆様には本当に感謝しています。今後も、地域と共に歩む学校として、さらに取り組みが充実するよう努めていきます」と感想を話しました。

おめでとうございました。

Dr's Message

いきいき健康術 第53回

『尿路感染症について』

このコーナーは、町立病院・診療所の医師や専門職員がみなさんにお届けする健康情報コーナーです。今回の担当は京丹波町病院長の佐藤秀一郎先生。自覚症状が少なく、気がつかない間に腎臓機能が低下してしまつていく尿路感染症についてのお話です。

尿路感染症とは、腎臓から尿道までの尿路に起こる感染症です。ほとんどが細菌(大腸菌、ブドウ球菌、腸球菌など)によって起こりますが、ウイルス、真菌、寄生虫などが原因になることもあります。発症経過から急性と慢性、基礎疾患の有無から単純性と複雑性に分けられ、次のような病気を引き起こします。

急性膀胱炎

排尿痛、頻尿、尿混濁が三大症状で、血尿、残尿感、尿失禁などを伴うこともあります。アルコールや刺激の強い食べ物を控え、水分を十分摂り、抗菌剤や抗生剤を服用すれば比較的簡単に治ります。

急性腎盂腎炎

発熱と腰痛で急に発症し、悪寒戦慄や高熱(三十八〜四〇度)を伴います。原因となった細菌の七〜八割が大腸菌で、安静、水分摂取、抗生剤の点滴や内服を行います。

慢性(複雑性)膀胱炎

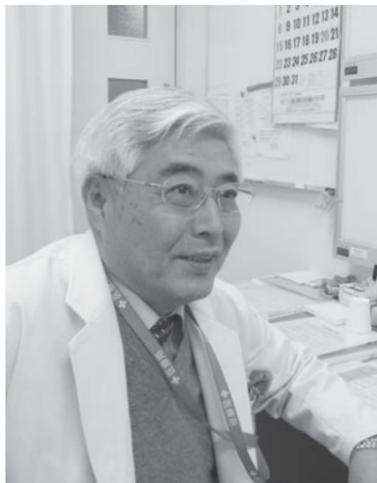
中高年の男性では、前立腺肥大症、前立腺がん、神経因性膀胱、膀胱がんなど、また、女性では過活動性膀胱、膀胱がん、膀胱下垂、瘤などの基礎疾患を持つ方が多く、再発や再燃を繰り返すこととなります。

尿路感染症にならないために

心にゆとりを持ち、体に無理をさせないことが第一です。日ごろから次のことに注意しましょう。

- ① 体(特に下半身)を冷やさない。
 - ② 疲れすぎない程度に適度の運動をする。
 - ③ 水分は日中多めに摂取し、夕方から控える。
 - ④ 尿意を我慢しすぎない。
 - ⑤ アルコールは控えめにする。
 - ⑥ バランスよい食事で便秘を整える。
- もしも尿路感染症かなと感じたら、病院か診療所で検査をして、しっかりと治してください。

京丹波町病院では、毎月の第二・第四土曜日の午前中に内科と小児科の診療を行っています。
☎ 86-0220



院長 佐藤 秀一郎先生 (京丹波町病院)

知事と和い和いミーティングがオープニングを飾る

■冬ほたる

知事と和い和いミーティングで意見を交わす山田知事ら(琴滝・市森)



名勝・琴滝を舞台にしたイルミネーションイベント「冬ほたる二〇一二」(NPO法人丹波みらい研究会主催)が十月九日～二十四日の期間で行われ、期間中を通じて多くの人でにぎわいました。今回は、発光ダイオード(LED)

六十五万個を琴滝や遊歩道などに設置し、鮮やかな光で幻想的な空間を醸し出すとともに、二十日と二十一日にはオカリナとミュージックベルのライブが催され、美しい音色を会場に響かせました。

また、初日に行われた点灯式では、園児らの掛け声を合図に琴滝に設置されたLEDが点灯。その後、「知事と和い和いミーティング」が開かれ、景観資産を活用した地域振興と琴滝冬ほたるに携わる皆さんとをテーマに、山田啓二知事、同研究会の岩崎栄喜理事長、寺尾豊爾町長らが、さらなる京丹波町の活性化について意見を交わすなど、

多彩な内容でオープニングを飾りました。



小川の清流をイメージした光のオブジェ

三十七チームが健脚を競う

■駅伝競走大会

第七回京丹波町駅伝競走大会(町体育協会、町教育委員会主催)が十二月十二日、和田地区のふれあい広場を発着点とした松山商店街周回コースで行われ、計三十七チーム(二百四十一人)が参加しました。大会は、小学生が二区間一キロの六区間、中学生と一般が一区間一・六五キロの五区間で実施。沿道からの熱い声援を受け、出場選手たちは持てる力

を出し切り、優勝目指して一生懸命にタスキをつないでいました。なお、駅伝大会の成績(優勝のみ)は次のとおり。

- 小学生男子の部 和知少年野球クラブA
- 小学生女子の部 和知小女時代
- 中学生男子の部 瑞穂中ベースボールA
- 中学生女子の部 瑞穂中ホッケー女子
- 一般男子の部 Fc Poors
- 一般男女混合の部 中台最強



力強くスタートを切る第一走者(ふれあい広場・和田)

京丹波町のシンボル

【町の鳥】うぐいす



【町の木】イチョウ



【町の花】つつじ



編集後記

新年明けましておめでとうございます。旧年中は広報京丹波発行にあたり、取材やインタビューなどで多くの皆様にお世話になりました。本年も気持ちを新たに、より良い広報紙を目指して精一杯努めてまいりますので、ご支援とご協力をよろしくお願いいたします。▶畑川ダム の定礎式を取材させていただきましたが、礎石と共に下山小の児童たちのメモリアルストーンが埋納される瞬間は、言葉に表せない感慨深いものがありました。歴史を刻む出来事に参加できたことに感謝するとともに、地域住民の一人として畑川ダムの完成を心より願っています。(K)